

(12) 特許協力条約に基づいて公開された国際出願

(19) 世界知的所有権機関
国際事務局

(43) 国際公開日
2015 年 12 月 23 日(23.12.2015)



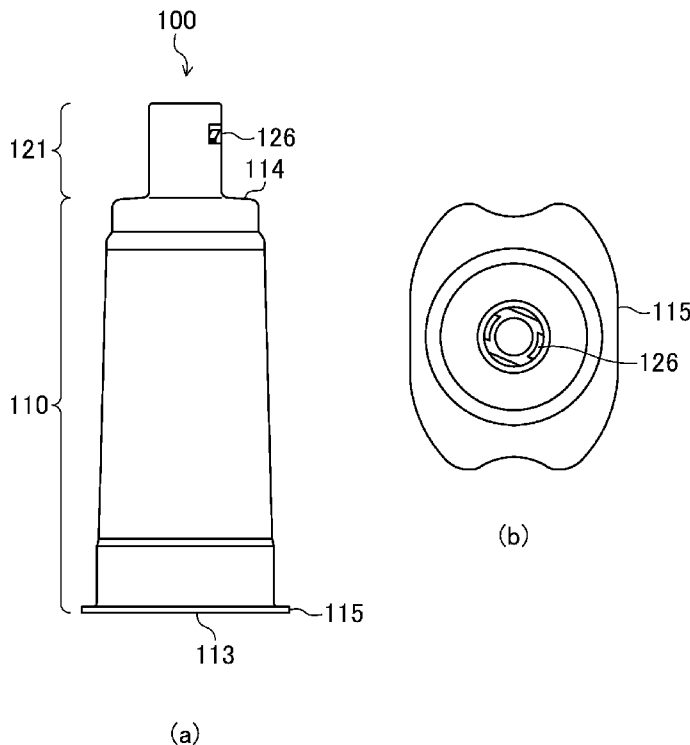
(10) 国際公開番号
WO 2015/194161 A1

- (51) 国際特許分類:
A61B 5/15 (2006.01)
- (21) 国際出願番号: PCT/JP2015/002997
- (22) 国際出願日: 2015 年 6 月 16 日(16.06.2015)
- (25) 国際出願の言語: 日本語
- (26) 国際公開の言語: 日本語
- (30) 優先権データ:
特願 2014-125165 2014 年 6 月 18 日(18.06.2014) JP
- (71) 出願人: ニプロ株式会社(NIPRO CORPORATION)
[JP/JP]; 〒5318510 大阪府大阪市北区本庄西 3 丁目 9 番 3 号 Osaka (JP).
- (72) 発明者: 中神 裕之(NAKAGAMI, Hiroyuki); 〒5318510 大阪府大阪市北区本庄西 3 丁目 9 番 3 号 ニプロ株式会社内 Osaka (JP). 阪本 慎吾(SAKAMOTO, Shingo); 〒5318510 大阪府大阪市北区本庄西 3 丁目 9 番 3 号 ニプロ株式会社内 Osaka (JP). 松本 一樹(MATSUMOTO, Kazuki); 〒5318510 大阪府大阪市北区本庄西 3 丁目 9 番 3 号 ニプロ株式会社内 Osaka (JP).
- (74) 代理人: 特許業務法人前田特許事務所(MAEDA & PARTNERS); 〒5410053 大阪府大阪市中央区本町 2 丁目 5 番 7 号 大阪丸紅ビル 5 階 Osaka (JP).
- (81) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の国内保護が可能): AE, AG, AL, AM, AO, AT, AU, AZ, BA, BB, BG, BH, BN, BR, BW, BY, BZ, CA, CH, CL, CN, CO, CR, CU, CZ, DE, DK, DM, DO, DZ, EC, EE, EG, ES, FI, GB, GD, GE, GH, GM, GT, HN, HR, HU, ID, IL, IN, IR, IS, JP, KE, KG, KN, KP, KR, KZ, LA, LC, LK, LR, LS, LU, LY, MA, MD, ME, MG, MK, MN, MW, MX, MY, MZ, NA, NG, NI, NO, NZ, OM, PA, PE, PG, PH, PL, PT, QA, RO, RS, RU, RW, SA, SC, SD, SE, SG, SK, SL, SM, ST, SV, SY, TH, TJ, TM, TN, TR, TT, TZ, UA, UG, US, UZ, VC, VN, ZA, ZM, ZW.
- (84) 指定国 (表示のない限り、全ての種類の広域保護が可能): ARIPO (BW, GH, GM, KE, LR, LS, MW, MZ, NA, RW, SD, SL, ST, SZ, TZ, UG, ZM, ZW), ユーラシア (AM, AZ, BY, KG, KZ, RU, TJ, TM), ヨーロッパ (AL, AT, BE, BG, CH, CY, CZ, DE, DK, EE, ES, FI, FR, GB, GR, HR, HU, IE, IS, IT, LT, LU, LV, MC, MK, MT, NL, NO, PL, PT, RO, RS, SE, SI, SK, SM, TR), OAPI (BF, BJ, CF, CG, CI, CM, GA, GN, GQ, GW, KM, ML, MR, NE, SN, TD, TG).

[続葉有]

(54) Title: BLOOD COLLECTION HOLDER

(54) 発明の名称: 採血ホルダ



(57) Abstract: This blood collection holder (100) is provided with: a cylindrical holder body (110) having a top panel portion (114) at the distal end side; and a connecting portion (121) arranged on the top panel portion (114), a connector being connected to the connecting portion (121). The connecting portion (121) has a first section (123) having a female thread for engaging with a male thread provided to the connector, and a second section (124) provided closer to the distal end side than is the first section (123). The second section (124) has a lock portion (126) which has an inside diameter smaller than a flange portion provided to the connector, and which can be surmounted by the flange portion.

(57) 要約: 採血ホルダ(100)は、先端側に天板部(114)を有する筒状のホルダ本体(110)と、天板部(114)に配置され、コネクタが接続される接続部(121)とを備えている。接続部(121)は、コネクタに設けられた雄ねじと係合する雌ねじを有する第1の部分(123)と、第1の部分(123)よりも先端側に設けられた第2の部分(124)とを有している。第2の部分(124)は、内径が前記コネクタに設けられた鍔部よりも小さく、鍔部が乗り越えることができるロック部(126)を有している。

添付公開書類:

— 国際調査報告 (条約第 21 条(3))

明 細 書

発明の名称：採血ホルダ

技術分野

[0001] 本開示は、採血ホルダに関する。

背景技術

[0002] 被検者から採血する際には、採血ホルダと真空採血管とを用いる方法が一般に用いられている。採血ホルダは、後端部から真空採血管を挿入できるホルダ本体に両頭の採血針が取り付けられている。一般に、採血針はホルダ本体に分離可能に取り付けられた状態で医療現場に供給される。採血針が予めホルダ本体に取り付けられているため、すぐに使用することができる。また、採血針をホルダ本体に取り付ける際に採血針が汚染されたり、誤穿刺等の事故が生じたりするおそれも低減できる。一方、採血針をホルダ本体から分離できるため、採血後には、採血針を分別して廃棄することができる。

[0003] 採血の際には、採血針がホルダ本体に確実に取り付けられていることが重要である。採血針をホルダ本体に確実に取り付けのために、ねじ部を有するコネクタに採血針を接着し、コネクタをホルダ本体の接続部にねじ込むことが行われている（例えば、特許文献1を参照。）。

先行技術文献

特許文献

[0004] 特許文献1：特開2000-166901号公報

発明の概要

発明が解決しようとする課題

[0005] しかしながら、従来のねじ込み式の採血ホルダは、ねじ込まれているコネクタが、輸送時の振動等により緩んだり、ホルダ本体から外れたりするという問題がある。コネクタをねじ込むと共に接着剤等で固定する方法も考えられるが、ホルダ本体によく用いられるポリプロピレンは接着剤による接着が困難であるという問題がある。また、使用後に採血針をホルダ本体から分離

することが困難となるという問題もある。また、緩み止めのピンを設けたりする方法も考えられるが、ピンを取り付けたりする工程が増えるため、生産性が低下するという問題がある。両頭の採血針に限らず、ホルダ本体にコネクタを介して針又はチューブ等を接続する場合には同様の問題が発生する。

[0006] また、従来のねじ込み式の採血ホルダには、採血管を挿入する際に、コネクタが緩んだり、脱落したりしやすいという問題もある。

[0007] 本開示は、コネクタの緩み又は脱落が生じにくく且つ組み立てが容易な採血ホルダを実現できるようにすることを目的とする。

課題を解決するための手段

[0008] 採血ホルダの一態様は、先端側に天板部を有する筒状のホルダ本体と、天板部に配置されコネクタが接続される接続部とを備え、接続部は、コネクタに設けられた雄ねじと係合する第1の部分と、第1の部分よりも先端側に設けられた第2の部分とを有し、第2の部分は、内径がコネクタに設けられた鏝部よりも小さく、且つ鏝部が乗り越えることができるロック部を有する。

[0009] 採血ホルダの一態様において、接続部は、天板部から先端側に突出する筒状とすることができる。

[0010] 採血ホルダに一態様において、ロック部は、第2の部分における内壁に設けられた凸部とすることができる。

[0011] この場合において、凸部は、第2の部分の内周に沿って設けられた、1つ以上の突起部とすることができる。

発明の効果

[0012] 本開示の採血ホルダによれば、輸送中及び採血管の挿入時においてコネクタの緩み又は脱落が生じにくく且つ組み立てが容易な採血ホルダを実現できる。

図面の簡単な説明

[0013] [図1]図1(a)及び(b)は一実施形態に係る採血ホルダを示し、図1(a)は正面図であり、図1(b)は上面図である。

[図2]図2は採血ホルダに接続するコネクタの一例を示す断面図である。

[図3]図3は接続部を拡大して示す断面図である。

[図4]図4は接続部の変形例を示す断面図である。

[図5]図5（a）及び（b）は接続部の変形例を示し、図5（a）は断面図であり、図5（b）は上面図である。

[図6]図6は接続部の変形例を示す上面図である。

[図7]図7は接続部の変形例を示す上面図である。

[図8]図8は接続部の変形例を示す断面図である。

発明を実施するための形態

[0014] 図1（a）及び図1（b）は一実施形態に係る採血ホルダ100を示している。採血ホルダ100は、先端側に設けられた天板部114を有する筒状のホルダ本体110と、天板部114から突出する筒状の接続部121とを有している。以下において特に断りが無い限り、使用時に患者側となる側を先端側とする。また、図1（a）に示すようにホルダ本体を下側にした状態において上下方向を説明する。

[0015] 採血ホルダ100には、例えば、図2に示すようなコネクタ200を取り付けることができる。図2には、コネクタ200に両頭の採血針221が接着剤231により接着された例を示している。コネクタ200は、雄ねじ216が切られた基部212と、採血針221等が固定されるハブ213と、基部212とハブ213との間に設けられた鏝部214とを有している。コネクタ200に取り付けるデバイスは、両頭の採血針221に限らない。例えば、翼状針の付いたチューブ等を取り付けることができる。また、留置針の外針を取り付けることもできる。

[0016] 図3に示すように、接続部121は、第1の部分123と、第1の部分123よりも先端側に設けられた第2の部分124とを有している。第1の部分123は、コネクタ200の基部212に設けられた雄ねじと係合する雌ねじを有する。第2の部分124は、コネクタ200をロックするロック部を有している。ロック部は第2の部分124の側壁に設けられ内側に突出する可撓性の凸部とすることができる。

- [0017] 図１（ａ）及び図１（ｂ）においては、可撓性の凸部を側壁に設けられた弾性変形可能な舌片状部１２６としている。舌片状部１２６は、側壁の一部が切り抜かれ、ホルダ本体１１０側が自由端となり、ホルダ本体１１０と反対側が固定端となっている。
- [0018] 第２の部分１２４は、舌片状部１２６が設けられていない部分においては、コネクタ２００の鏝部２１４の外径よりもわずかに内径が大きい。舌片状部１２６は自由端側が固定端側よりも内側になるように曲げられている。このため、舌片状部１２６が設けられた部分における内径の最小値は、鏝部２１４の外径よりも小さい。また、舌片状部１２６の下端部と第１の部分１２３の上端部との間隔は鏝部２１４の厚さよりもわずかに大きくなっている。これにより、舌片状部１２６は、コネクタ２００をロックするロック部として機能する。
- [0019] コネクタ２００を接続部１２１にねじ込んでいくと、鏝部２１４がロック部である舌片状部１２６に当接する。舌片状部１２６は弾性変形して外側に拡がることのできるため、コネクタ２００をさらにねじ込むと、鏝部２１４は舌片状部１２６を拡げながらホルダ本体１１０側に移動する。鏝部２１４が舌片状部１２６の位置を越えると、舌片状部１２６は復元し、図３に示すように、鏝部２１４の上に乗り上げ、コネクタ２００がロックされる。
- [0020] 舌片状部１２６によりコネクタ２００がロックされるため、振動等によってコネクタ２００が接続部１２１から外れるおそれはほとんど無い。また、採血管の挿入時にもコネクタ２００が外れるおそれはほとんど無い。しかし、大きな力を掛けてコネクタ２００を逆回転させると、舌片状部１２６を乗り越えさせることができる。従って、使用後にコネクタ２００を採血ホルダ１００から分離することができる。
- [0021] ホルダ本体１１０の天板部１１４と反対側は、採血管を挿入することができる開口端１１３となっている。ホルダ本体１１０の天板部１１４は、中央部に貫通孔１１４ａを有している。貫通孔１１４ａは接続部１２１と連通している。

- [0022] 開口端 113 にはフランジ 115 を設けることができる。フランジ 115 を設けることにより、採血管の挿入操作が容易となる。また、フランジ 115 を下にしてホルダ本体 110 を自立させることが容易となる。また、採血ホルダ 100 を横にしてテーブル等の上に置いた場合に転がりにくくすることができる。フランジ 115 は、必要に応じて設ければよく、設けなくてもよい。また、ホルダ本体 110 と別の部材によってフランジ 115 を形成してもよい。
- [0023] ホルダ本体 110 は、開口端 113 から天板部 114 に向かって次第に径が小さくなるようにすることができる。これにより、採血管の挿入が容易となる。但し、ホルダ本体 110 の径は一定であってもよい。ホルダ本体 110 の内側は平滑であってもよいが、採血管保持部を設けることもできる。採血管保持部を設けることにより、採血管をホルダ本体 110 内に保持することが容易となる。採血管保持部は、採血管を側面から押さえる突起としたり、板ばねとしたりすることができる。また、弾性変形する別部材をホルダ本体 110 内に挿入して採血管保持部とすることもできる。ホルダ本体 110 の外側は平滑であってもよいが、凹凸が設けられていてもよい。
- [0024] ホルダ本体 110 と接続部 121 とは、一体に形成することができる。但し、ホルダ本体 110 と接続部 121 とを別々に形成した後、組み立てることもできる。ホルダ本体 110 及び接続部 121 は、どのような材料により形成されていてもよいが、例えばポリエチレン又はポリプロピレン等の樹脂により形成することができる。
- [0025] 本実施形態の採血ホルダ 100 は、ロック部である舌片状部 126 を自由端側が内側に曲げられた構成とした。しかし、弾性変形する舌片状部 126 により第 2 の部分 124 の内径が鍔部 214 の外径よりもわずかに小さくなればどのような構成としてもよい。例えば、図 4 に示すように、舌片状部 126 の自由端に内側に突出する爪部 128 を設けた構成とすることができる。
- [0026] 本実施形態においては、ロック部となる可撓性の凸部を舌片状部 126 と

した構成を示した。このような構成のロック部は、デバイスがはめ込みやすく且つ外れにくいという利点を有する。しかし、ロック部において第2の部分124の内径を鍔部214が乗り越えられる程度に小さくすることができれば、他の構成としてもよい。例えば、第2の部分124の内壁に設けた突起部をロック部とすることができる。

[0027] 図5(a)及び図5(b)は、ロック部となる凸部として、複数の独立した突起部126Aを設けた変形例を示している。突起部126Aは第2の部分124の内周に沿って複数設けられている。突起部126Aが設けられた部分における内径の最小値は鍔部214の外径よりもわずかに小さい。樹脂製の接続部121はある程度の弾性変形が可能であるため、鍔部214は突起部126Aを乗り越えることができる。このような、構成のロック部は形成が容易であるという利点を有する。突起部126Aが等間隔に10個設けられた例を示しているが、突起部126Aの数は特に限定されない。また、突起部126Aを不等間隔に設けることもできる。全ての突起部126Aの周方向の幅及び軸方向の高さが等しい例を示したが、周方向の幅及び軸方向の高さの少なくとも一方が異なる突起部が混在していてもよい。突起部126Aが複数設けられている例を示したが、突起部126Aを1つとすることもできる。

[0028] 図6は、突起部として、連続した凸条部126Bを設けた変形例を示している。凸条部126Bは第2の部分124の内周に沿って連続して設けられている。このような構成のロック部は、点状の突起部よりもデバイスが外れにくいという利点を有する。図6においては、内壁面からの高さが一定である凸条部126Bが設けられ、凸条部126Bが設けられた部分においても第2の部分124の内形状が円形状となっている。しかし、内壁面からの高さが一定でない凸条部を設けることもできる。

[0029] 図7は、内壁面からの高さが変化する凸条部126Cを設けた変形例を示している。このような構成のロック部は、高さが一定の連続した凸条部よりもデバイスがはめ込みやすいという利点を有する。図7においては、凸条部

1 2 6 C が設けられた部分における第 2 の部分 1 2 4 の内形状が正六角形状となっている。但し、凸条部 1 2 6 C によって生じる内形状はどのような形状であってもよく、例えば三角形状又は四角形状等とすることができる。また、凸条部 1 2 6 C によって直線状の辺が生じる例を示したが、凸条部 1 2 6 C によって曲線状の辺が生じるようにすることができる。例えば、凸条部 1 2 6 C によって第 2 の部分 1 2 4 の内形状がレンズ状又は楕円状等となってもよい。図 7 においては、凸条部 1 2 6 C が内壁面から突出していない部分を有している例を示しているが、全ての部分において内壁面から突出していてもよい。

[0030] 凸部は、凸条部と独立した突起部とを組み合わせてもよい。例えば、凸条部の一部がさらに突出した構成とすることができる。突起部と舌片状部とを組み合わせることも可能である。

[0031] 突起部の軸方向に沿った断面形状は、例えば内壁面となす角が、ホルダ本体 1 1 0 側において反対側よりも大きくなっている形状とすることができる。このようにすれば、コネクタ 2 0 0 をねじ込む方向には鍔部 2 1 4 が突起部を乗り越え易くし、コネクタ 2 0 0 が緩む方向には鍔部 2 1 4 が突起部を乗り越えにくくすることができる。

[0032] ロック部における内径の最小値は、接続部及びコネクタの材質等にもよるが、鍔部の径よりも 0.5%～2% 程度小さい値とすることができる。このような値とすることにより、コネクタの緩みを発生しにくくできると共に、コネクタのねじ込みも容易に行うことができる。

[0033] 図 1～図 7 において、接続部 1 2 1 が天板部 1 1 4 から先端側に突出している例を示した。しかし、図 8 に示すように、接続部 1 2 1 が天板部 1 1 4 から開口端 1 1 3 側に突出している構成としてもよい。図 8 においては、ロック部となる凸部が独立した突起部 1 2 6 A である例を示したが、天板部 1 1 4 から先端側に突出した接続部 1 2 1 を設ける場合と同様に、連続した凸条部としたり、舌片状部としたりすることができる。

産業上の利用可能性

[0034] 本開示の採血ホルダは、コネクタの緩み又は脱落が生じにくく且つ接続が容易であり、採血ホルダとして有用である。

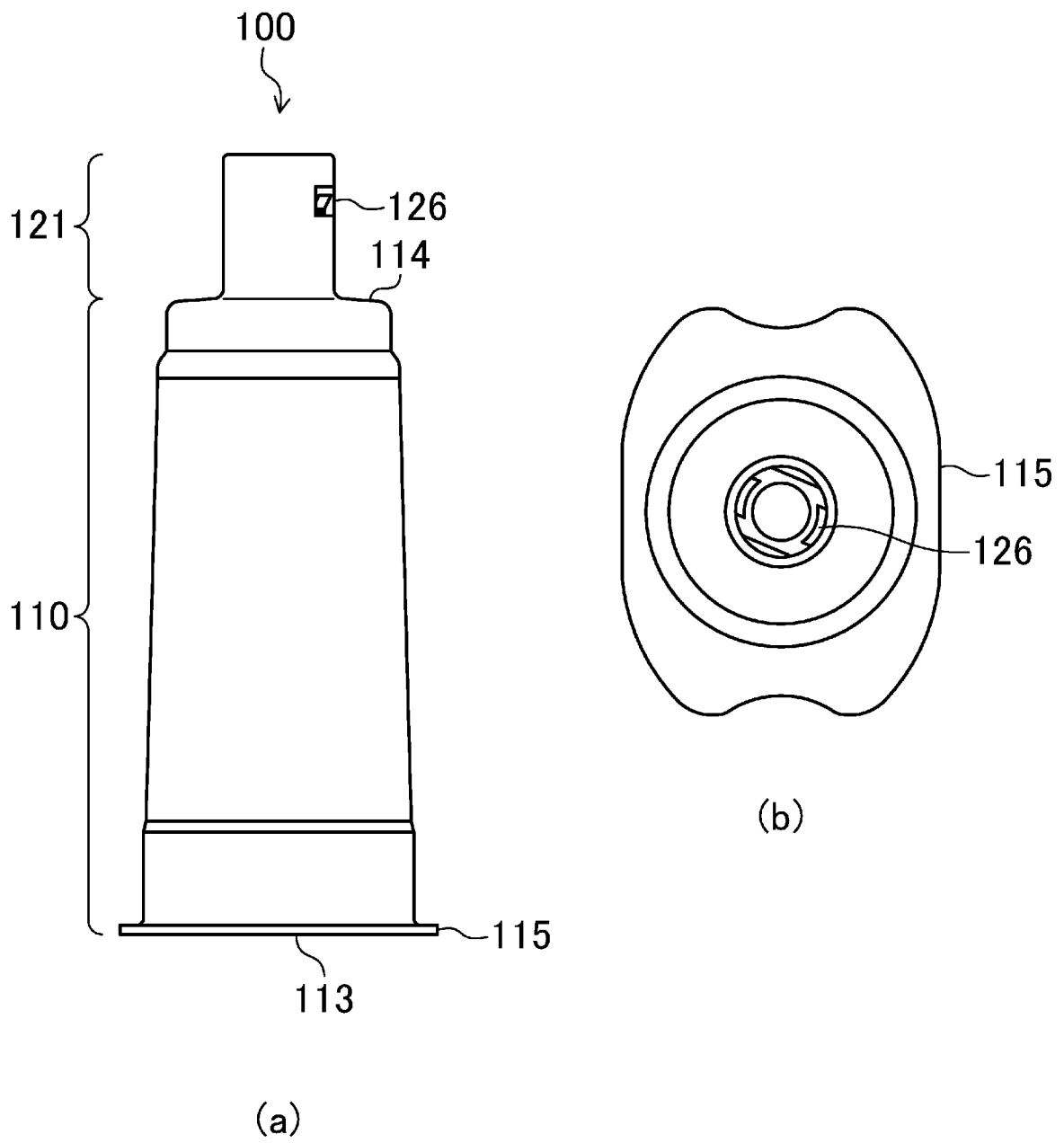
符号の説明

[0035]	1 0 0	採血ホルダ
	1 1 0	ホルダ本体
	1 1 3	開口端
	1 1 4	天板部
	1 1 4 a	貫通孔
	1 1 5	フランジ
	1 2 1	接続部
	1 2 3	第 1 の部分
	1 2 4	第 2 の部分
	1 2 6	舌片状部
	1 2 6 A	突起部
	1 2 6 B	凸条部
	1 2 6 C	凸条部
	1 2 8	爪部
	2 0 0	コネクタ
	2 1 2	基部
	2 1 3	ハブ
	2 1 4	鐳部
	2 2 1	採血針
	2 3 1	接着剤

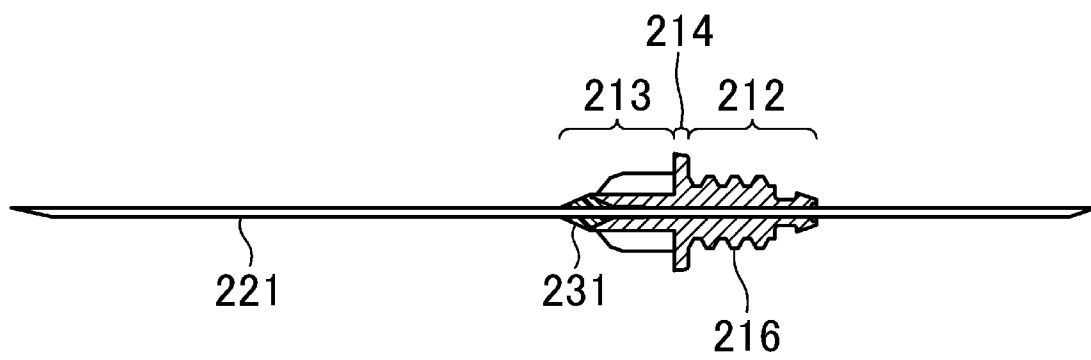
請求の範囲

- [請求項1] 先端側に天板部を有する筒状のホルダ本体と、
前記ホルダ本体の天板部に配置され、コネクタが接続される接続部と
を備え、
前記接続部は、前記前記コネクタに設けられた雄ねじと係合する第
1の部分と、前記第1の部分よりも先端側に設けられた第2の部分と
を有し、
前記第2の部分は、内径が前記コネクタに設けられた鏝部よりも小
さく、且つ前記鏝部が乗り越えることができるロック部を有する、採
血ホルダ。
- [請求項2] 前記接続部は、前記天板部から先端側に突出する筒状である請求項
1に記載の採血ホルダ。
- [請求項3] 前記ロック部は、前記第2の部分における内壁に設けられた凸部で
ある、請求項1又は2に記載の採血ホルダ。
- [請求項4] 前記凸部は、前記第2の部分の内周に沿って設けられた、一つ以上
の突起部である、請求項3に記載の採血ホルダ。

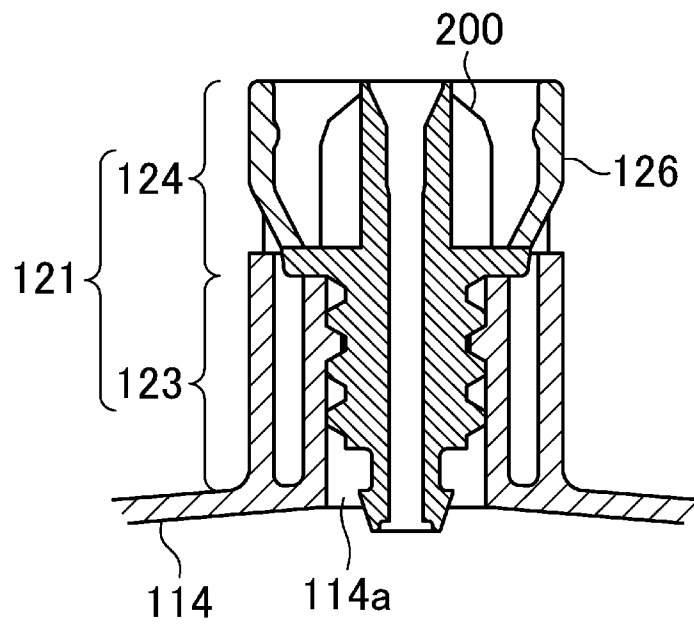
[図1]



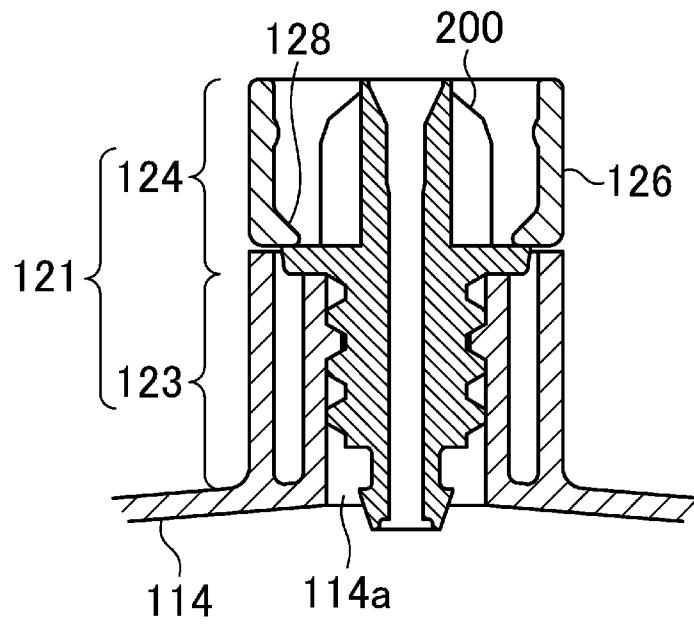
[図2]



[図3]

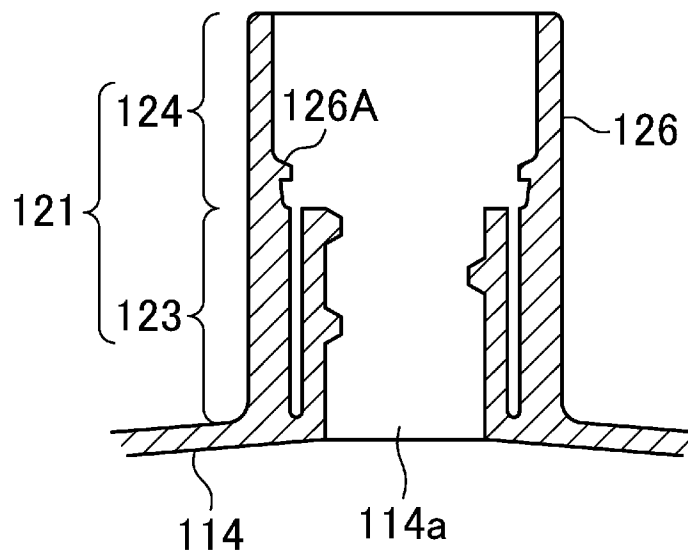


[図4]

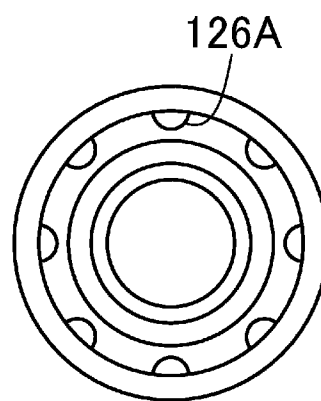


[図5]

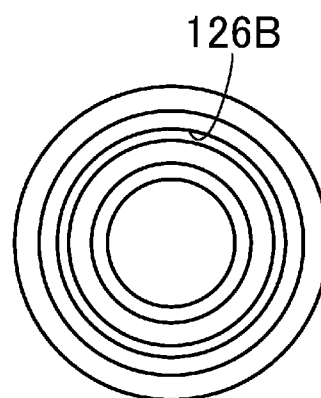
(a)



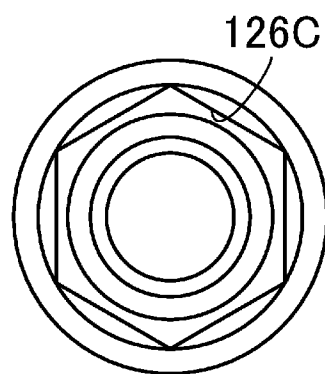
(b)



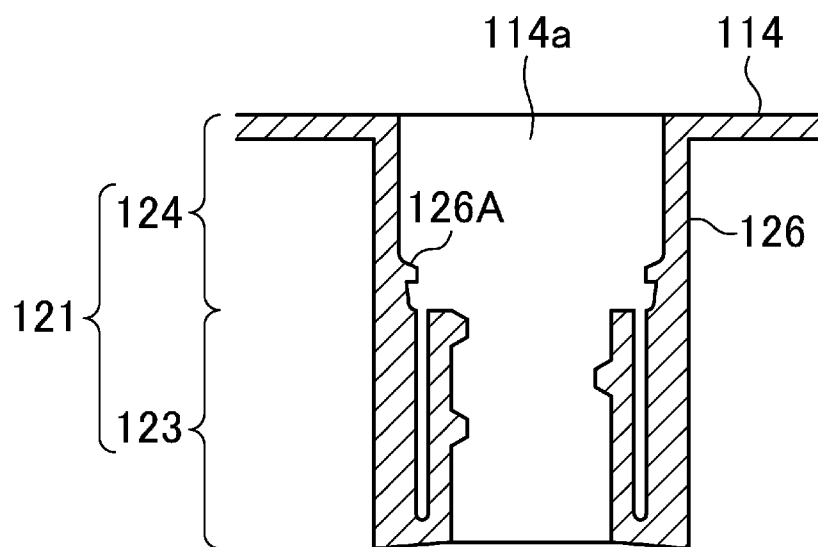
[図6]



[図7]



[図8]



INTERNATIONAL SEARCH REPORT

International application No.

PCT/JP2015/002997

A. CLASSIFICATION OF SUBJECT MATTER

A61B5/15(2006.01) i

According to International Patent Classification (IPC) or to both national classification and IPC

B. FIELDS SEARCHED

Minimum documentation searched (classification system followed by classification symbols)

A61B5/00-5/22

Documentation searched other than minimum documentation to the extent that such documents are included in the fields searched

Jitsuyo Shinan Koho	1922-1996	Jitsuyo Shinan Toroku Koho	1996-2015
Kokai Jitsuyo Shinan Koho	1971-2015	Toroku Jitsuyo Shinan Koho	1994-2015

Electronic data base consulted during the international search (name of data base and, where practicable, search terms used)

C. DOCUMENTS CONSIDERED TO BE RELEVANT

Category*	Citation of document, with indication, where appropriate, of the relevant passages	Relevant to claim No.
Y	JP 2008-307193 A (Sekisui Chemical Co., Ltd.), 25 December 2008 (25.12.2008), paragraphs [0016] to [0034]; fig. 1 to 3 (Family: none)	1-4
Y	JP 2007-152083 A (Nipro Corp.), 21 June 2007 (21.06.2007), paragraph [0012] & EP 1782732 A1	1-4

☐ Further documents are listed in the continuation of Box C.

☐ See patent family annex.

* Special categories of cited documents:

"A" document defining the general state of the art which is not considered to be of particular relevance

"E" earlier application or patent but published on or after the international filing date

"L" document which may throw doubts on priority claim(s) or which is cited to establish the publication date of another citation or other special reason (as specified)

"O" document referring to an oral disclosure, use, exhibition or other means

"P" document published prior to the international filing date but later than the priority date claimed

"T" later document published after the international filing date or priority date and not in conflict with the application but cited to understand the principle or theory underlying the invention

"X" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered novel or cannot be considered to involve an inventive step when the document is taken alone

"Y" document of particular relevance; the claimed invention cannot be considered to involve an inventive step when the document is combined with one or more other such documents, such combination being obvious to a person skilled in the art

"&" document member of the same patent family

Date of the actual completion of the international search
07 September 2015 (07.09.15)

Date of mailing of the international search report
29 September 2015 (29.09.15)

Name and mailing address of the ISA/
Japan Patent Office
3-4-3, Kasumigaseki, Chiyoda-ku,
Tokyo 100-8915, Japan

Authorized officer

Telephone No.

A. 発明の属する分野の分類（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. A61B5/15(2006.01)i

B. 調査を行った分野

調査を行った最小限資料（国際特許分類（I P C））

Int.Cl. A61B5/00-5/22

最小限資料以外の資料で調査を行った分野に含まれるもの

日本国実用新案公報	1922-1996年
日本国公開実用新案公報	1971-2015年
日本国実用新案登録公報	1996-2015年
日本国登録実用新案公報	1994-2015年

国際調査で使用した電子データベース（データベースの名称、調査に使用した用語）

C. 関連すると認められる文献

引用文献の カテゴリー*	引用文献名 及び一部の箇所が関連するときは、その関連する箇所の表示	関連する 請求項の番号
Y	JP 2008-307193 A（積水化学工業株式会社） 2008.12.25, 段落0016-0034、図1-3 (ファミリーなし)	1-4
Y	JP 2007-152083 A（ニプロ株式会社） 2007.06.21, 段落0012 & EP 1782732 A1	1-4

☐ C欄の続きにも文献が列挙されている。☐ パテントファミリーに関する別紙を参照。

* 引用文献のカテゴリー

「A」特に関連のある文献ではなく、一般的技術水準を示すもの

「E」国際出願日前の出願または特許であるが、国際出願日以後に公表されたもの

「L」優先権主張に疑義を提起する文献又は他の文献の発行日若しくは他の特別な理由を確立するために引用する文献（理由を付す）

「O」口頭による開示、使用、展示等に言及する文献

「P」国際出願日前で、かつ優先権の主張の基礎となる出願

の日の後に公表された文献

「T」国際出願日又は優先日後に公表された文献であって出願と矛盾するものではなく、発明の原理又は理論の理解のために引用するもの

「X」特に関連のある文献であって、当該文献のみで発明の新規性又は進歩性がないと考えられるもの

「Y」特に関連のある文献であって、当該文献と他の1以上の文献との、当業者にとって自明である組合せによって進歩性がないと考えられるもの

「&」同一パテントファミリー文献

国際調査を完了した日

07.09.2015

国際調査報告の発送日

29.09.2015

国際調査機関の名称及びあて先

日本国特許庁（I S A/J P）

郵便番号100-8915

東京都千代田区霞が関三丁目4番3号

特許庁審査官（権限のある職員）

佐藤 高之

2 Q

3 6 0 4

電話番号 03-3581-1101 内線 3292